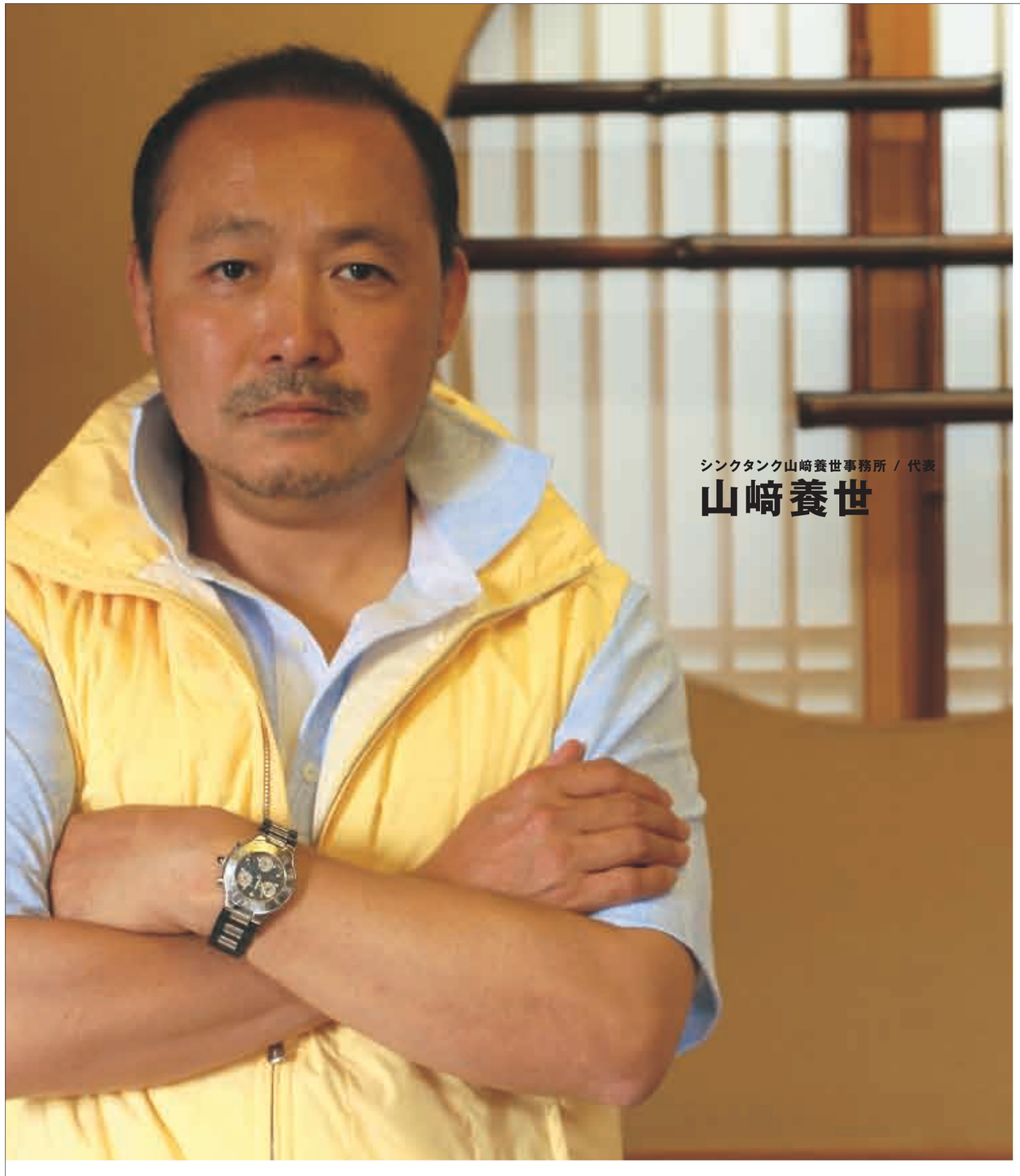

シンクタンク山﨑養世事務所 / 代表

山﨑養世

PROFILE

山﨑養世・ヤマザキヤスヨ
1958年生まれ。福岡市出身。東京大学経済学部卒業後、カリフォルニア大学ロスアンゼルス校において経営学修士号（MBA）取得。大和証券を経て1994年にゴールドマン・サックス社へ。1998年にはゴールドマン・サックス投信株式会社代表取締役社長に就任。その後2002年にシンクタンク山﨑養世事務所を設立。政治、経済、外交問題など多方面で才能を発揮している。
www.yamazaki-online.jp

02
COUNTRY STYLE

「現実逃避」ではない。「思考改革」のためのVACATION

日本の別荘地といえば、軽井沢、蓼科などが有名だが、
ゴールドマン・サックス投信株式会社代表取締役社長を務めるなど、
内外の経済問題の第一人者として知られる山﨑養世氏は、
ここ福岡・糸島こそ、国内屈指の別荘地となる可能性を秘めているという。

Photograph / Shinichirou Tanaka　Text / Yousuke Takahashi

山﨑　糸島って地元の人には田舎の海水浴場程度の認識しか無いけど、これほど贅沢なリゾート地はありません。例えば、僕の散歩コースの「にぎの浜」。自然のままの浜辺が5㎞以上も続く海岸なんて東京にはない。青い海、新鮮な魚、すべてが最高。なにより一番の魅力は、人がいない。東京で本当に人がいないところに行こうとすると、とてつもなく時間がかかるし、生活には不便。でも、ここは僕の市内の自宅から30分。こんな場所は日本中どこにもない。

―海外での生活を通じて培われたグローバルな視点を持つ山﨑氏だが、世界の流れは都心部・極集中から分散化が進み、なおかつ陸の時代から水、海の時代に向かっていると見ている。

山﨑　都市の発展とか言ってるけど、とんでもない。アメリカをご覧なさい。大企業はみんな郊外やリゾート地に移転を始め、情報通信の発達、交通の進化によって、今やアメリカの中心はニューヨークだけではなくなりつつあります。イタリア、スペイン、ヨーロッパもそう。人々は澄んだ水とビーチ、太陽のある場所を求めている。でも、アジアだけは依然として都会志向の古い価値観にこだわってる。都会には都会の良さがあるのは確かだけど、あんな過密状態の中ではクリエイティビティは育たない。斬新な発想は、自然の中だからこそ生まれるんです。

―近年の日本経済の重大な関心事が、間もなく到来する団塊世代の引退。山﨑氏はそこに大引越し時代の到来を予感している。

山﨑　乾き切って、疲れてしまって、癒しを求めているんだね。今は右にならえで東京、東京と言ってるからみんなそう思い込んでるけど、実際は都会での生活をやめてみても何も困らない。東京の真ん中から比べると、この辺りの土地はタダみたいなもの。しかも自然から得られる潤いや感動は計り知れない。脱東京の大引越し時代の到来、これは間違いないと思います。

―そんな糸島の新しいリゾート地としての可能性を感じる山﨑氏だが、一方で懸念しているのは、人口の増加に伴う開発の問題だ。

山﨑　不要な開発は、やってはいけない。なにもないビーチ、これが一番の贅沢。これからのリゾートは豪華さや便利さより、手付かずの自然をどれだけ残せるか、という新しい競争が生まれて来るでしょう。美しい自然を残しつつ、最低限必要なものだけを作る。それが出来れば、たとえアクセスが不便でも、人は全国から集まってくる。ハードはあるんだから。大自然という偉大なハードが。そんな新しい可能性に一番近い位置にありながら、気がついていないのが日本人。もったいない話です。

―BRICsの台頭、依然不安定な株式相場など、日本経済を取り巻く環境は決して楽観できる状況ではないが、この糸島での生活の中に、これからの日本のとるべき道についてのヒントも隠されているという。

山﨑　これからの日本は、まず観光国として環境整備に力を入れることが必要。観光といっても、旗を持ったガイドさんが連れて回るようなものではなく、世界中の人に「ここに住ませてください！」と言ってもらえるような魅力ある国になること。それが真の観光です。

　ここから空港までは40分程度。ネットなど情報環境も整備されているから、ここにいても中枢で起きてる状況はすべて把握できる。何も困らない。東京じゃ吉祥寺から東京駅に出るまで1時間かかる。しかもぎゅうぎゅうの満員電車。どちらが本当の贅沢か？考えるまでもありませんよね。

Yamazaki on holiday

別荘から車で10分弱。お気に入りの浜辺「にぎの浜」で朝の散歩。「からっと晴れた青空も好きだけど、ニューイングランド風の薄曇りの天気もまた、心地いいですよ」。

ここには、いろいろな業種の人が集まる。そして思考のフュージョンを起こさせる。そうしているとアグリツーリズムやマリンツーリズムといったビジネスの発想も生まれて来る。

［写真左手前］高校の先輩である 中村調理製菓専門学校 理事長 / 中村 哲氏
［写真左奥］同級生である 紙与産業（株）/ 常務取締役 / 渡邊 浩志氏

別荘からほど近い場所にある、山﨑氏が経営する玄海マリーナ。利用料金を抑え、釣りやクルージングなどのマリンレジャーが気軽に楽しめるようになっている。

玄海マリーナ / 092-328-2723 www.h3.dion.ne.jp/~genkai-m

最近はヨットにもご執心の山﨑氏。そのコーチ役が、山﨑氏曰く「遊びの先生」という前田博幸氏。同氏が所有する「SEXYDUCK」はヨットレースでは知られた存在。

1 / 氏の東京オフィスは斬新なアート調だが、別荘の作りは意外にも純和風。手入れの行き届いた庭木で囲まれた庭園風の門構えが重厚。/ 2 / 高級料亭を彷彿とさせるエントランス。落ち着いた雰囲気の中にも、どこか懐かしさが漂う。/ 3 / 二階の大広間。右手奥にはウッドデッキスペースも設けられ、バーベキューなどホームパーティも楽しめる。/ 4 / 交流関係は全国、世界各地に広がる山﨑氏。それだけに、来客のための部屋数は十分に用意されている。

©2006-2007.STATUSdesign / AI STATION Co., Ltd.